

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	教育委員会		
	課 名	学校教育課		
	係 名	施設係		
	記 入 者		電話(内線)	625

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	小学校施設整備事業			(3) 事業の 優先度	A		
(4) 総合計画での位置づけ				(6) 事業主体		市				
① 事業の区分	主要事業		(7) 予算・ 財源等 の種別			事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)			
② 施策コード	41201	(総合計画掲載ページ 115 ページ)				会計区分	一般会計			
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)					財源区分	国庫補助			
基本施策	4-1生きる力を育む教育環境づくり(学校教育)					予算科目	款 10	項 2	目 3	
施策	②安心して学べる学校づくりの推進					予算書上の 事業名称	小学校施設整備事業費 (予算書 162 ページに掲載)			
施策内容	1学校施設・設備の充実									
(5) 事業期間	開始		年	月から	(8) 事務分類		自治事務			
	終了		年	月まで (力年)	根拠法令					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）		(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）
児童及び教職員		
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）		(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など （※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）
○城南小学校増築事業 ・H28基本及び実施設計 ・H29増築工事 ○改修工事 ・トイレ改修（和便器を洋便器、床を乾式へ改修等） ・ボイラー室改修（使用予定のない設備を撤去し、物置・保管庫として活用） ・高圧気中開閉器（パス）交換（耐用年数を考慮し順次交換） ・運動場（校庭）改修（表土の入替え、排水暗渠等の整備） ・受変電設備改修（耐用年数を考慮し順次交換） ・受水槽高架水槽改修（耐用年数を考慮し順次交換）		
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境、市民ニーズ等）や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応		
・結城小の運動場（校庭）：表土が雨や風に流され体育など授業利用において危険な状況にある。このことについて保護者、教職員近隣住民から整備の要望がある。（H28基本設計、H29実施設計、H30工事施工） ・学校施設大規模改造（長寿命化）：学校からの要望件数が校舎の老朽化とともに年々増加し、教育環境の改善（清潔・衛生的なトイレやエアコン整備、子どもが安心・安全に利用できる施設など）が求められている。		

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映					
実施計画											
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）					
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度	
(1) 事務事業費	委託料	0		13,210							
	工事請負費(市単独)	47,269		3,004							
	工事請負費(国補)										
	・トイレ整備事業										
	・結城小グラウンド整備										
	合計	47,269		16,214							
	財源	国庫支出金 (千円)									
県支出金 (千円)		17,982									
地方債 (千円)											
その他特定財源 (千円)											
一般財源 (千円)		29,287		16,214							
合計 (千円)		47,269		16,214							
補助・起債制度名		再生可能エネルギー導入促進事業費補助金									

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名		目標値							
		実績(見込)値							
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率		%	%				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率		%	%				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価					理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	教育環境の整備のために必要である。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	行政以外には実施できない事業である。					
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	施設の老朽化が進むにつれ一件一件の工事の規模が大きくなる傾向にあり、工事に係る準備や設計、学校側との連絡調整に人員や時間を要する。					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	改善要求のある施設について必要な対応ができています。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	緊急性・重要性の高い案件を優先的に整備し、一定の効果は得られている。					
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	突発的な改修や事業費の増加により、計画の見直しがある。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
学校施設の長寿命化を図ることを念頭に計画的実施が必要である。計画立案における優先順位付けにおいては、学校規模の適正化についても考慮する必要がある。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
平成28年度中に学校施設の改修計画を策定する。改修計画に基づき実施設計、改修工事を実施し、優先度の高い学校を順次整備する。限られた財源で無駄なく事業が実施できるよう学校規模の適正化についても検討する。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)			耐震化事業が完了したため、今後は学校施設長寿命化を主体として事業を展開する。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				